



キューガーデン
Royal Botanic Gardens, Kew

愛しただ花々

英国王室が

シャーロット王妃とボタニカルアート

行館
of ART

シャーロット王妃とボタニカルアート

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART.

JR 静岡駅北口より徒歩3分	夜7時まで開館
----------------	---------

休館日=毎週月曜日(ただし祝日の場合は開館)、
5月6日[木]

開館時間＝10:00～19:00(展示室入場は閉館
30分前まで)

観覧料=一般1,300(1,100)円、大高生・70歳以上900(700)円、中学生以下無料

* ()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金 *障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

前売券＝3月13日[土]から4月14日[水]まで販売
静岡市美術館、ローソンチケット[Lコード:00000]、
セブンチケット[セブンコード:000-000]、チケットぴあ
[Pコード:0000-000]、谷島屋(パルシェ店)、マーク
イブ静岡店、流通通り店、MARUZEN&ジュン
堂書店静岡店、大丸松坂屋静岡店友の会

*当館ホームページ(www.shizubi.jp)より日時指定予約ができます。詳細はHPをご覧ください。

主催＝静岡市、静岡市美術館 指定管理者
(公財)静岡市文化振興財団、Daichi-TV
後援＝静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、
ブリティッシュ・カウンシル

協力=日本航空

UK IN JAPAN

企画協力=株式会社

— **FIN** —

ブレントラスト

1) フランツ・アドリアス・ポパー [ゴタチチウク (ノスチナ・アキキ)] (ゴ
クラナツナキキ) 1818年 [名産園]。手形紙。紙。2) レナトゥム・タース
ド・ワーズ [ムナサキシバ (ブルー・マーズ・イズ・スター・オーフ)] の栽培
品 (ハンバク) 1809年 [蘭版紙]。手形紙。紙。3) モーリス・ポパー
1788年 [蘭版紙]。手形紙。紙。4) レナトゥム・タース・ド・ワーズ [ムナ
サキ・ムナサキ・フム・フム (シンクバ)] 1809年 [蘭版紙]。手形紙。紙。5)
ジヤック・アムブル・ド・ラ・ノルマント・ナール・ダール・ダール・ダール
Adair (アール) 1740年 手形紙。紙。6) ジョージ・アムブル・ド・ラ・ノ
ルマント・ナール・ダール・ダール・ダール・ダール (スズメバチ) 1810年 [蘭版紙]。手形紙。紙。7) フランツ・ポパー・ノッパ・ノッパ・ノッパ
ノッパ (ノッパ) 1794年 [蘭版紙]。紙。8) ジョージ・アムブル・ド・ラ・ノ
ルマント・ナール・ダール・ダール・ダール・ダール (ノッパ) 1813年 [蘭版紙]。手形紙。紙。すべて部分 [1, 4, 5, 6, 8]
キ。王立植物園 [The Board of Trustees of the Royal Botanic
Gardens, Kew. [2, 3] 個人蔵 Photo Brain Trust Inc.]

2021 **4** | **15** ^{thu.} ➤ **6** | **6** ^{sun.}

【プレスリリースのお問い合わせ】 展覧会担当:伊藤・高橋 広報担当:大庭・寺崎

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F info@shizubi.jp

Aoi Tower 3E, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

トマス・ハーヴェイ夫人
《ローザ・ケンティフォリア（キャベツローズ）と
ローザ・ガリカ（フレンチローズ）の栽培品種（バラ科）》部分
1800年 水彩、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew



キューガーデン

英国王室が愛した花々

シャーロット王妃とボタニカルアート

ユネスコ世界遺産にも登録されている英国王立植物園「キューガーデン」は、18世紀半ばの開園以来、世界の植物学研究をリードし続け、植物標本のほか20万点以上のボタニカルアート（植物画）を収蔵していることでも知られています。本展は、18-19世紀に描かれたボタニカルアートのほか、キューガーデンの拡張に寄与した国王ジョージ3世の妃シャーロットが愛したウェッジウッドのクイーンズウェアなど約130点の作品を通して、啓蒙思想を背景とした英国における自然科学の発展やキューガーデンの歴史を紐解きます。科学的視点で描かれた植物たちは、写真誕生以前、貴重な記録であり研究資料のひとつでしたが、植物学の歴史を培うなかで次第に芸術性を見出されるようになりました。観察に基づいた精緻な描写と美しさが融合するボタニカルアートの世界をどうぞお楽しみください。

キュー王立植物園 *Royal Botanic Gardens, Kew*

キューガーデンの愛称で親しまれている同園は、ロンドンの南西部テムズ河畔にあり、132ヘクタールにおよぶ庭園を擁する世界を代表する植物園です。園内には3万種以上の植物および約14,000本の樹木が植えられています。1759年にジョージ3世の母親であるオーガスタ皇太子妃によって設立された同園は、その面積を拡張すると共に世界各地から様々な植物を収集してきました。ジョージ3世とその妃シャーロットが愛したキュー・パレスや世界最大の規模を誇る温室テンペレート・ハウスなど、特徴的な建物も見どころのひとつです。現在のキュー王立植物園は世界的な観光地である一方、植物と菌類における科学の分野で世界をリードしている研究機関でもあります。2003年には、その植物コレクションの多様さが評価されたのみならず、庭園技術の歴史と発展における多大な貢献が認められ、ユネスコ世界遺産の指定を受けました。

開催要項

■開催期間：2021年4月15日（木）－6月6日（日）全46日間

■休館日：毎週月曜日（ただし祝日の場合は開館）、5月6日（木）

■開館時間：10:00－19:00（展示室入場は閉館30分前まで）

■観覧料：一般1,300（1,100）円、大高生・70歳以上900（700）円、中学生以下無料

*（ ）内は前売および20名以上の団体料金（団体は来館当日に限り購入可能） *障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

■前売券：3月13日（土）から4月14日（水）まで以下の箇所にて販売

静岡市美術館、ローソンチケット、セブンチケット、チケットぴあ、谷島屋（パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店）、MARUZEN& ジュンク堂書店新静岡店、大丸松坂屋静岡店友の会

■当館ホームページ（www.shizubi.jp）より日時指定予約ができます。詳細はHPをご覧ください。

■主催等 主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、Daiichi-TV
後援（予定）：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、プリティッシュ・カウンスル
協力：日本航空
企画協力：株式会社プレーントラスト

UK IN JAPAN

 **GREAT** for PARTNERSHIP

I

心華やぐ！ボタニカルアートの世界

科学的視点で描かれたボタニカルアート（植物画）は、写真誕生以前、貴重な記録であり研究資料のひとつでしたが、植物学の歴史を培うなかで次第に芸術性を見出されるようになりました。

本展ではイングランドの国花であるバラをはじめ、チューリップ、ボタン、ランなど多数の植物が登場します。観察に基づいた精緻な描写と美しさが融合するボタニカルアートの世界を存分にお楽しみください。



《モスローズ（バラ科）》部分
1788年
銅版画、手彩色、紙
個人蔵
Photo Brain Trust Inc.

II

歴史に名を残す植物画家を紹介

分類学の父リンネと親交のあったゲオルク・ディオニシウス・エーレット（1708–1770）やキューガーデン最初の専属画家フランツ・アンドレアス・パウアー（1758–1840）の貴重な水彩原画を紹介。さらに『フローラの神殿』『カーティス・ボタニカル・マガジン』といった出版物など、ボタニカルアートの歴史を語る上で欠かせない作品を紹介しながら、啓蒙思想を背景とした英国における自然科学の発展やキューガーデンの歴史を紐解きます。

III

シャーロット王妃が愛したウェッジウッド



ウェッジウッド
《カメオ・ブローチ「シャーロット王妃」》
20世紀 ジャスパーウェア（磁器）個人蔵
Photo Michael Whiteway

キューガーデンの拡張に寄与した国王ジョージ3世の妃シャーロットが愛したウェッジウッド（WEDGWOOD）のクイーンズウェアのほか、ダービー（Derby）、ウースター（Worcester）、など王室ゆかりの陶磁器も展示。さらに当時の建築・工芸のデザイン的主流であるジョージアン様式の部屋を部分的に再現し、ボタニカルアートを愛した人びとの暮らしぶりも紹介します。

IV

世界中でボタニカルブーム到来！

従来のガーデニングファンだけでなく、近年植物は、ファッション、インテリア、フード、美容など、若い世代のライフスタイルにも浸透しつつあります。本展では様々な関連イベントを通して、植物と人間との関係にも目を向けます。日々の生活に目を向け、彩りを与える展覧会となるでしょう。

章構成

- 第1章 英国王室と共に歩んだ植物画
- 第2章 シャーロット王妃がつないだ文化の開花
- 第3章 英国を魅了した東洋の植物画 カンパニー・スクール
- 第4章 『カーティス・ボタニカル・マガジン』
- 第5章 女性画家たち

フレデリック・ボリドール・ノッダー
《フランスギク（キク科）》部分
1794年
銅版画、紙
個人蔵
Photo Brain Trust Inc.



第1章

英国王室と共に歩んだ植物画

キューガーデンがあるキュー地区は、古くから王室とゆかりのあるエリアでした。ハノーヴァー朝のジョージ2世の息子であるフレデリック皇太子の妃オーガスタが1759年に9エーカー（約3.6ヘクタール）の庭園を開き、キューガーデンの歴史が始まります。彼らの息子ジョージ3世（在位1760–1820）とその妻であるシャーロット王妃は、園内にあるキュー・パレスを夏の離宮とし、庭園を拡張していきます。1773年には植物学者ジョセフ・バンクス（1743–1820）を庭園の監督者として登用すると、彼は世界各地の珍しい植物を収集し、それらを記録するために植物画家たちを起用しました。植物を愛好する英国王室のプライベートな庭園として始まったキューガーデンは、1841年に国立（王立）施設として一般公開されるようになりました。

花々を愛した シャーロット王妃



ヨハン・ゾファニー《シャーロット王妃の肖像》
1772年 メゾチント 個人蔵
Photo Brain Trust Inc.

キューガーデン最初の専属画家 フランツ・バウアー（1758–1840）



ゴクラクチョウカの和名を持つ、南アフリカ原産のストレリチア（Strelitzia）は、キューガーデン最初の非公式園長の植物学者ジョセフ・バンクス（1743–1820）が、シャーロット王妃の生まれ故郷ドイツのメクレンブルク＝シュトレリッツ公国（Mecklenburg-Strelitz）にちなんで名付けた植物です。

フランツ・アンドレアス・バウアー
《ゴクラクチョウカ（ストレリチア・レギネ）（ゴクラクチョウカ科）》
1818年
石版画、手彩色、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

分類学の父リンネと親交 植物画の様式を築いた ゲオルク・エーレット（1708–1770）



ゲオルク・デヨニシウス・エーレット
《チューリップ属の栽培品種「Bosch Adelaar」（ユリ科）》
1740年
水彩、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

『フローラの神殿』（1799–1807）

ロバート・ジョン・ソートン（1768？–1837）編集による、分類学の父リンネの学説を明示するような贅を尽くした植物図譜。

植物の背景に風景が描かれた特徴的な図版は、植物画を専門とする画家ではなく、ロイヤル・アカデミー会員など当時の流行画家たちによって描かれました。ソートンは自著をシャーロット王妃に献呈し、裕福な上流階級の愛好者からも高い評価を得ましたが、商業的には成功せず私財をつぎ込み経済的に追い込まれてしまいました。



ラムゼイ・リチャード・ライナグル《スワンブリリー（ユリ科）》
1799年 銅版画、紙



エイブラハム・ベザー《シクラメン（サクラソウ科）》
1804年 銅版画、紙
ともにロバート・ジョン・ソートン編『フローラの神殿』より
個人蔵 Photo Michael Whiteway



トマス・ハーヴェイ夫人
《ローザ・ケンティフォリア (キャベツローズ) と
ローザ・ガリカ (フレンチローズ) の栽培品種 (バラ科)》
1800年 水彩、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

英国のシンボルーバラ

バラは英国人にとって特別な花と言えるでしょう。イングランドの国花であり、現在の国王エリザベス2世の紋章のなかにもバラが描かれています。このバラは「テューダー・ローズ(ユニオン・ローズ)」と呼ばれ、その由来は15世紀にまでさかのぼります。赤バラを紋章とするランカスター家と白バラを紋章とするヨーク家による王位継承をめぐる争い、通称「バラ戦争」(1455-1485)は、最終的にランカスター家が勝利を収めます。そしてヨーク家と婚姻関係を結んでテューダー朝をひらき30年に及ぶ内乱は幕を閉じました。その際、両家の連合のしるしとして2つのバラが重なった紋章がつけられました。



《モスローズ(バラ科)》
1788年 銅版画、手彩色、紙 個人蔵
Photo Brain Trust Inc.

第2章

シャーロット王妃がつないだ文化の開花

18世紀の英国では、実験的な試みや未知なるものの発見を広く後押しする啓蒙主義を背景に、哲学、医学、植物学など科学全般、経済学、商業、工学などが隆盛し、産業革命において他国の先がけとなりました。ルナー・ソサエティ（月光協会）は、英国における啓蒙主義の具現化のひとつと言えます。このグループには、製陶業者のジョサイア・ウェッジウッドのほか、進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンの祖父にあたる医師のエラズマス・ダーウィン、蒸気機関を改良したジェームズ・ワットらが参加し、科学、自然哲学、技術や産業発展に関するアイデアが披露されました。

こうした科学と産業の時代に、その発展の一翼を担ったのが王室でした。ジョージ3世の妻であるシャーロット王妃は芸術と科学を保護し、啓蒙時代を体現する妃となりました。



シャーロット王妃のお気に入りウェッジウッド

1759年設立のウェッジウッド社は、創業間もない1761年にめらかな乳白色の硬質陶器「クリームウェア」を開発しました。シャーロット王妃も注文し、その製品を気に入り「クイーンズウェア（女王の陶器）」の名称を与えました。これを機にウェッジウッドの名は広まり、世界中から注文が相次ぎました。



[左]ウェッジウッド
《ポートランドの壺》
19世紀(1790年頃完成)
ジャスパーウェア(炻器)
個人蔵
Photo Michael Whiteway

[右]ウェッジウッド
《蓋付き深皿(クイーンズウェア)》
1765-1770年
クリームウェア(陶器)、エナメル彩
個人蔵
Photo Michael Whiteway



ダーウィンも所有していたウォーター・リリー

『種の起源』で知られるチャールズ・ダーウィンの母スザンナは、ウェッジウッド創業者であるジョサイア・ウェッジウッドの娘であり、ダーウィンの妻エマも孫にあたります。

ウェッジウッド《平皿「ウォーター・リリー」(ダーウィン・サービスより)》
1808-1811年 アースンウェア(陶器)、エナメル彩 個人蔵
Photo Michael Whiteway

ジョージアン様式の部屋を部分再現



ボタニカルアートを愛した当時の人びとの暮らしぶりを紹介します。

《ジョージアン様式の椅子》
1775年頃 木 個人蔵
Photo Michael Whiteway

第3章

カンパニー・スクール

1600年にエリザベス1世より貿易の特権を与えられた東インド会社 (East India Company) は、17世紀後半から18世紀にかけて巨大な利益を生み出す組織となり、軍事力を高めながらインド経営に注力しました。そして18世紀にはインドの支配権をめぐって争っていたフランスに勝利し、植民地化を推し進めます。同社は医療や貿易に有利な植物の調査のため、1778年より植物学者をインドへ派遣、彼らは押し葉標本だけでなく、現地のインド人画家たちに植物画を依頼し英国へ持ち帰りました。カンパニー・スクールとは、一般的にはこの英国人の趣味に合わせて制作を行なったインド人画家たちを指しますが、東インド会社が影響力を持った東南アジアや東アジアの画家たちも含まれます。

1858年の東インド株式会社の解散後、植民地で描かれた植物画のほとんどがキューガーデンに移管されました。カンパニー・スクールの植物画は、各地の貴重な記録としてだけでなく、英国人植物学者と現地の画家たちとの協同により生まれた特異な文化的産物として価値が見直されつつあります。

第4章

カーティス・ボタニカル・マガジン

『カーティス・ボタニカル・マガジン』は、1787年2月1日にウィリアム・カーティス (1746-1799) がロンドンで創刊し、2世紀以上を経た今もキューガーデンが刊行を続ける学術誌です。

創刊当初の同誌は、毎月3種の植物を紹介し、1年分 (36種) を1巻として収録する形をとっていました。カーティスは創刊にあたり、植物図版の制作をジェームス・サワビー、シデナム・エドワーズら英国最良の植物画家たちに依頼しました。彼らの正確かつ美しい描写が本誌の学術的、商業的な成功を支え、毎号およそ3,000部を売上げました。幅広い読者層を持ち、特に上昇志向の強い中産階級の間では、園芸が流行しました。

初期の大多数の原画を制作

ウェールズ出身のシデナム・エドワーズ (1768-1819)



シデナム・ティースト・エドワーズ《チョウマメ (マメ科)》
1813年 黒鉛、水彩、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew



シデナム・ティースト・エドワーズ
《ボタンの栽培品種（ボタン科）》
1809年頃
黒鉛、水彩、紙
キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

原画

原画と手彩色銅版画

『カーティス・ボタニカル・マガジン』に掲載された図版は、植物画家たちが描いた水彩画を元に複製された銅版画に、1点ずつ手彩色した豪華なものでした。そのため書籍の図版は基本的に原画と左右反転しています。本展では、原画と書籍の両方が出品されるので、比較して鑑賞することができます。



シデナム・ティースト・エドワーズ
《ボタンの栽培品種（ボタン科）》
1809年 銅版画、手彩色、紙 個人蔵
Photo Brain Trust Inc.

手彩色銅版画

ダービー磁器

1750年創業のダービーは、1775年にジョージ3世により「クラウン」の名誉を得た、英国王室御用達の陶磁器ブランドです。1795年頃に製作された楕円形皿2枚と円形皿6枚のサービスセットは、『カーティス・ボタニカル・マガジン』に掲載された植物画が引用され、皿の裏面には植物の名前が記されています。



ダービー《ボタニカル・サービス》
1795年頃 磁器 個人蔵
Photo Brain Trust Inc.

第5章 女性画家たち



植物画や水彩画を学ぶことは、18世紀の英国の女性たちの教養のひとつとみなされていました。裕福な家庭では、植物図譜や教本を用いて女性の家庭教師から植物学を学び、採取した花を押し花にして標本を作成していました。また絵画教師を雇って水彩画の技法を身につけ、ボタニカルアートも描いていました。当時の女性の職業選択の幅はごく限られたものでしたが、このような習慣が広まったことで女性が植物画家として活躍するという選択肢が生まれました。優れた女性の植物画家が登場する背景には、知識人による交流会「ブルー・ストックキングス」の活動など、女性による人権運動の盛り上がりという社会的状況も影響しています。

シャーロット王妃の娘が描いたバラ

シャーロット・オーガスタ・マチルダ《バラ属の栽培品種（バラ科）》
1789年 インク、淡彩、紙 キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

関連イベント

①講演会

日時：4月25日（日）14：00－15：30（開場13：30）
講師：大場秀章氏（東京大学名誉教授・本展学術監修者）
会場：当館多目的室
参加料：無料
定員：50名（予定）
申込締切：4月8日（木）必着
＊申込方法の詳細は当館ホームページをご覧ください。

②当館学芸員によるスライドトーク

日時：5月1日（土）、5月29日（土）
いずれも14：00－（各回40分程度）
会場：当館多目的室
参加料：無料
定員：50名（予定）
申込不要、先着順

③Shizubi シネマアワー vol. 27 「語りかける庭」

(1)『フラワーショウ！』
（ヴィヴィアン・デ・コルシイ監督／2014年／アイルランド／100分）
(2)『シェイクスピアの庭』
（ケネス・ブラナー監督／2018年／イギリス／101分）
日時：(1) 5月15日（土） (2) 5月16日（日）
いずれも14：00－（開場13：30）
会場：当館多目的室 ※簡易の映像設備での上映になります
参加料：500円
※4月15日（木）より静岡市美術館受付にて整理券を配布（定員になり次第配布終了）
※参加料はイベント当日にお支払いください
定員：各回50名
企画協力：㈱サールナートホール

ボタニカルモチーフでプレゼント！

草花、果物などのボタニカルモチーフ（植物柄）
をご提示の方先着 200 名様にオリジナル缶
バッジをプレゼント！※当館受付にてご提示
ください（生花の持ち込みはご遠慮ください）
※お 1 人様 1 回限り、本展ご観覧の方に限ります



シデナム・ティースト・エドワーズ
《ゲンティアナ・セプテムフィダ（リンドウ科）》部分
1809年 黒鉛、水彩、紙
キュー王立植物園
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

連携イベント

● 静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

科学教室「研究者と学ぼう！植物の仲間わけ」

日時：5月30日（日）10：00－12：00
講師：早川宗志氏（ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授）
会場：静岡科学館る・く・る 8階創作ルーム
対象：小学4－6年生 定員：16名 参加：無料
申込：4月25日（日）9：30～静岡科学館る・く・る
（TEL.054-284-6960）まで電話にて受付

●ボタニカルアート講座（水彩画）

日時：4月29日（木・祝）14：00－15：30
講師：藤森有規子氏（ふじのくに地球環境史ミュージアム サポーター）
会場：ふじのくに地球環境史ミュージアム
対象：高校生以上 参加料：1,000円
＊申込等詳細は右記QRコードよりご確認ください。



JR 静岡駅北口より徒歩 3 分／夜 7 時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515（代表） www.shizubi.jp